

「福井県の若者との交流」について

三重県戦略企画部企画課

1 「福井県の若者との交流」について

ふるさと知事ネットワークでは、三重県を含む地勢の異なる地方の13県が「ローカル・アンド・ローカル」の発想で人や地域の新しいネットワークをつくり、地方自治の新しいモデルをつくるための活動を行っています。

今回、本ネットワークに参加する福井県と三重県との共同事業として、地域づくりに取り組む両県の若者グループが日ごろの活動について意見交換等を行うことで関係を深めていただくことを目的に交流事業を開催しました。

※「福井県の若者との交流事業」

日時：平成25年9月28日（土）

場所：伊勢市内

主催者：福井県、三重県

協力：四日市大学、三重大学、皇学館大学 他

参加者：両県の若者グループ

福井県22名、三重県19名

「自治と分業で日本を支えるふるさと知事ネットワーク」共同事業
「福井県と三重県との若者交流事業」in 伊勢

開催日 9/28(土)

開催目的
ふるさと知事ネットワークでは、地勢の異なる地方の13県の「ローカル・アンド・ローカル」の発想で人や地域の新しいネットワークをつくり、地方自治の新しいモデルをつくるための活動を行っています。
本ネットワークに参加する福井県と三重県との共同事業として、地域づくりに取り組む両県の若者グループが日ごろの活動について意見交換等を行うことで関係を深めていただくことを目的に開催します。

参加対象者
● 福井県 ● 三重県
● 両県から20名程度の若者
20名程度

開催日時 平成25年9月28日（土） 14:30～16:00
＜開催地＞ 外宮参道発展会 山本 武士 講堂
＜開催先＞ 伊勢市山本、山本 武士 講堂
＜参加費＞ 無料
＜定員＞ 20名程度

交流会 平成25年9月28日（土） 16:00～20:30
＜第1部 参加者間での意見交換会＞ 16:00～18:00
参加グループに分かれて座談会やディスカッション等を通じて、参加者の間で意見交換を行います。
＜第2部 講演＞ 18:00～20:30
講演者の紹介や懇話会の開催など、参加者同士の交流の場を設けます。
＜第3部 懇話会＞ 18:00～20:30
講演者の紹介や懇話会の開催など、参加者同士の交流の場を設けます。
※参加費（第1部～第3部）全て無料にて開催です。

会場 伊勢市山本 山本 武士 講堂
〒511-0017
伊勢市山本 山本 武士 講堂
TEL: 059-22-4555
FAX: 059-22-4555
E-MAIL: info@yamamoto-wakushi.jp
伊勢市から徒歩5分・伊勢山本駅か
山本 武士 講堂
定員 20名
※参加費 30分

交通 三重県立総合体育館
〒511-0017
伊勢市山本 山本 武士 講堂
TEL: 059-22-4555
FAX: 059-22-4555
E-MAIL: info@yamamoto-wakushi.jp
伊勢市から徒歩5分・伊勢山本駅か
山本 武士 講堂
定員 20名
※参加費 30分

交通 三重県立総合体育館
〒511-0017
伊勢市山本 山本 武士 講堂
TEL: 059-22-4555
FAX: 059-22-4555
E-MAIL: info@yamamoto-wakushi.jp
伊勢市から徒歩5分・伊勢山本駅か
山本 武士 講堂
定員 20名
※参加費 30分

2 交流の概要

<9/28（土）>

■外宮参道発展会山本 武士氏によるご講演、外宮参道フィールドワーク【14:30～16:00】

○講演のポイント

- ・式年遷宮を始めとする神宮の歴史、神宮への参拝客数の推移（昭和40年を境に減少、パワースポットブームによる増加等）、内宮と外宮の違いなどについてご説明いただき、神宮は日本人が誇るべき財産であることを学びました。
- ・外宮参道における“まちづくり”のこれまでの取組と今後の展開について説明いただき、「外宮さんが喜んでくれること（KS・神様満足度の向上）」という目標を明確にし、イベントそのものが目的化しないように気を付けていること、また全員が同じ方向をめざすため、想いを伝え合う場を大切にしていることなど、参加者の今後の活動のヒントになるお話を聞くことができました。



参加者からの質疑等

- ・なぜ外宮参道の取組を行うようになったのか。

元々外宮さんをよくしようと思ったわけではなく、神宮のことをよく調べてみると、日本人が世界に誇るべき場所であることを知り、国内外の方に知ってもらいたいと思ったから。

また、まちを元気にするためには、新陳代謝が必要であり、新しい人が住むことで活性化し、地域の方の幸福感も高めていける。



外宮参道フィールドワーク

- ・講演会終了後、外宮参道周辺においてフィールドワークを行いました。

三重と福井の若者グループの意見交換会(グループワーク)【16:00~18:00】

- ・福井県の代表者から、福井県の特徴について紹介がありました。
- ・その後、「いせコンビニネット」の浦田氏の進行により、6つの班に分かれて、「日頃の活動における困りごと」と「解決策の検討と両県での若者間の連携」の2つのテーマについてグループワークを行いました。

両県からの主な意見

<日頃の活動における困りごと>

- ・人：参加者が少ない。専門性のある方がいない。世代を超えたつながりがない。地域の人と参加者に意識の差がある。モチベーションの維持が難しい。学生の場合、後輩への引継が難しい。
- ・情報：情報の発信力が弱い。収集力がない。活動が知られていない。
- ・時間：参加者同士の集まる時間が合わない。
- ・資金：お金がない。行政からの助成がない。
- ・その他：イベントが目的化している。目的と手段を取り違えている。



<解決策の検討>

- ・人：お互いに知りあうことが大事である。人と人をつなげるための仕掛けが必要。地域の人をいかに巻き込むかが大事。
- ・情報：Facebook等SNSの活用。フェイス・トゥ・フェイスの関係をもつことも大事。メディアとのつながり。

- ・資金：行政からの助成に頼るのではなく、想いをもつ人で自主的に資金を集めることも大事。
- ・その他：最終的な目標を明確にもつことが大切である。

< 両県での若者間の連携の可能性 >

- ・今回の取組を継続して、お互いに刺激し合いたい。
- ・人が集まり、交流できる拠点をつくり、時間をかけて両者を知ること、人と人のネットワークをつなげてはどうか。
- ・両県の若者による合コン等を開催してはどうか。
- ・両県で実践的な勉強会を行ってはどうか。



< 9/29(日) >

有限会社伊勢福 代表取締役社長 橋川史宏氏によるご講演【9:30~10:30】五十鈴塾

講演のポイント

- ・企業経営手法による「まちづくりモデル」である「おかげ横丁」について、説明していただき、地域経営のヒントについて学びました。
- ・おかげ横丁は、神宮参拝客のもてなしの場であり、この町が好き、また行ってみたいという気持ちになってもらえるような、まちの雰囲気、気配、においを大切にしている。
- ・伊勢と熊野・吉野・高野とのつながり、信仰の歴史を大事にしている。
- ・町づくりのコンセプトは、「神恩感謝」、「日本の伝統文化」、「伊勢商人の町」。
- ・経年劣化しない町づくりを目指し、伝統的な建物、伝統的な町並み、本物の商品とサービスを追究しており、地域に根付き、人々に受け継がれてきた催し物を継続している。

参加者からの質疑等

- ・事業費 140 億円は、どこで調達したのか。

当初の事業費は 100 億円。株式会社赤福の自己資金と、外資や政策銀行等からの借入金により対応した。



皇学館大学の学生との情報交換会【13:00～15:00】皇学館大学内 百船

情報交換会の概要

- ・皇学館大学の代表者から、皇学館大学現代日本社会学部の筒井教授・藤井准教授と地域社会研究会の学生が取り組む、伊勢市内の「新道（しんみち）商店街」での活性化に向けた取り組みなどの活動を紹介しました。
- ・その後、筒井教授の進行により、まちづくりの活性化にむけた産学の連携を考えるため、5つの班に分かれて、「これまでの活動を通じて考える大学連携の効果」、「大学連携を一層促進していくための課題」について、グループワークを行いました。



参加者からの主な意見

<これまでの活動を通じて考える大学連携の効果>

(学生にとって)

- ・授業ではできない経験ができる。また、就職時、就職後など将来に経験が生かせる。
- ・社会人から資金面など学生が弱い部分の支援を得られる。
- ・専攻以外の分野での知識や経験が得られる。

(地域にとって)

- ・若い感性を生かしたアイデアがもらえる。また、情報発信（フェイスブックなど）で協力してもらえる。
- ・地域の団体や個人間のパイプ役を学生が担ってくれる。
- ・平日は活動しにくい社会人の穴を埋めてくれる。
- ・大学等の有する知的資源にアクセスできる。

<大学連携を一層促進していくための課題>

- ・地域の皆さんと学生の想いにギャップがある。価値観の違い、世代間ギャップなど
- ・学生が便利屋的に動きすぎて、もともと何をを目指していたのか分からなくなる。
- ・学生にはルールを越えた自由な提案をしてほしい。
- ・学生はいつか卒業してしまうので、活動を継承させることが課題
- ・学生と繋がる場所がない。つながる方法がわからない。

<双方のメリット>

- ・学校、地域・企業の双方の社会的信用があがる。学校にとっては入学生の確保、地域にとっては活動の自信につながる。また企業にとっては社会的信用が高まることで取引の拡大等に期待が持てる。



石垣三重県副知事との意見交換【16：30～17：00】三重県庁 石垣副知事との意見交換の概要

福井県から参加した皆さんと、石垣 英一副知事とで2日間の行程を通じた感想などについて、意見交換を行いました。その後、副知事から若い皆さんへ5つのメッセージが贈られました。



参加者からの感想等

- ・ 地元の敦賀市には「氣比神宮」があるが、おはらい町やおかげ横丁の活性化のお話しが参考になった。
- ・ 20年毎の式年遷宮やそれを支える地域の皆さんのお話を聞いて、歴史をつなげていく大切さを実感した。また、神宮には独特の雰囲気があるが、それは地元の皆さんの想いが創っているのではないかと思った。
- ・ あわら市の温泉街の泉質は良いが、街歩きできる雰囲気がない。おかげ横丁を散策した際に、紙芝居を子供が楽しそうに見ていた。あのわくわくするような楽しさがあればと思った。
- ・ 初めて伊勢を訪れて「日本人としての在り方」のようなものを強く感じた。
- ・ 景観が大切にされており、おもてなしの心を視覚を通じて感じる事ができた。

石垣副知事からの5つのメッセージ

「エンピツ型人間」(芯はしっかり、周りに気(木)を遣える)になって欲しい。

「ATM型人間」(A:明るく、T:楽しく、M:前向きに)になって欲しい。

人生における3つの坂(上り坂、下り坂、まさか)のいずれにも対処できるようになって欲しい。

夢は叶う(“叶”は“口(クチ)”に“+(プラス)”, 前向きであること)

発憤力～二宮尊徳「太陽の徳、広大なりといえども、芽を出さんとする念慮、育たんとする気力なきものは 仕方なし」発憤力こそ人生をひらく源である。

意見交換終了後の記念撮影

